

第1回通訳案内士研修高度化に関する検討会（結果概要）

観光庁観光地域振興部観光資源課

本年より観光庁では、訪日外国人旅行者の多様なニーズに対応できる受入環境整備の一環として、「通訳案内士専門性研修支援事業」を開始し、通訳案内士制度に関わる関係者で構成された「第1回通訳案内士研修高度化に関する検討会」を開催しました。本検討会では、「通訳案内士専門性研修支援事業」において実施する「通訳案内士専門性研修」の実効性や、通訳案内士団体等が実施している通訳案内士研修の現状及び課題を踏まえ、外国人旅行者のニーズに適応した実践的な通訳案内士研修制度のあり方について、通訳案内士団体、旅行業界、地方自治体等の関係者で議論を行いました。

1. 開催日時、場所

日時：平成22年11月16日（火）16:00～18:00

場所：観光庁国際会議室

2. 出席者（添付ファイル参照）

3. 付議資料（添付ファイル参照）

【資料1】通訳案内士研修の高度化に関する検討会設置について

【資料2】出席者一覧

【資料3】配席図

【資料4】株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル発表資料

【資料5】社団法人日本観光通訳協会発表資料

【資料6】協同組合全日本通訳案内士連盟発表資料

【資料7】NPO法人通訳ガイド&コミュニケーション・スキル研究会
発表資料

【資料8】NPO法人日本文化体験交流塾発表資料



4. 主な意見

①通訳案内士団体からの意見

ア) 現行の通訳案内士研修について

- ・通訳案内士資格の合格者は減少しているが、研修を実施する通訳案内士団体の数は増加しており、受講者の獲得競争が激化している。そのため、コスト削減を強いられているのが現状である。国に金銭的な支援をしてほしい。
- ・雇用促進の観点から、若年層の研修参加者を増やしていきたい。
- ・研修実施コストがかかる。特に、会場費と会場の確保が課題。そのため、頻繁に研修を実施することが難しい。
- ・研修の費用対効果を考えると、研修開催地が首都圏・関西に集中してしまい、地方での開催ができない。
- ・英語ガイドが多いため、どうしても英語圏に偏った研修内容になる。
- ・研修の講師が不足している。ガイディングができるからといって講師ができる訳ではない。十分な予算がなく、講師にはボランティアで受けてもらっていることが多い。
- ・通訳案内士試験合格後の通訳案内士においては、ガイド業務の経験をどのように積むかが課題である。有料で通訳案内士の業務を行いながら、スキルを向上させていけるのが理想だが、業務経験を積む機会がなかなかない。
- ・研修受講希望者が多く、希望者全員を受け入れられないことが大きな課題となっている。

イ) 通訳案内士専門性研修について

- ・今回の抽選にもれた方やその他全国の通訳案内士の方々にも研修内容を共有できるようにしてほしい。
- ・通訳案内士が個人では勉強したり下見したりすることが難しい場所や内容について、国の事業で行ってほしい。
- ・講師料が高く普段なかなかお願いできない講師を呼んでほしい。
- ・座学だけでなく実地研修も実施してほしい。
- ・先輩の通訳案内士からガイディング・スキルを学びたいと多くの通訳案内士が思っている。そのようなことができる工夫をしてほしい。

②旅行会社からの意見

ア) 現行の通訳案内士研修について

- ・通訳案内士は旅行会社が販売するツアーにおいて重要な役割を担っているので、これだけ多くの通訳案内士研修を通訳案内士団体が実施していることに感謝を申し上げたい。
- ・通訳案内士のスキルアップのためには研修が必要であり、一定水準の研修を開催するには相応の費用がかかる。国による支援が必要ではないか。

- ・個人事業主としての通訳案内士に必要とされる経営能力や旅行業界の仕組みを学んでほしい。
- ・通訳案内士団体ごとに研修を実施しているが、所属していない団体が主催する研修には参加しにくい状況がある。
- ・ビジネスマナーや旅程管理など、通訳案内士として最低限必要なことを通訳案内士研修で身につけてほしい。

イ) 通訳案内士専門性研修について

- ・通訳案内士専門性研修は継続的に行ってほしい。
- ・できる限り多くの通訳案内士が参加できるようにしてほしい。
- ・通訳案内士専門性研修の開催は、旅行会社等にも広く告知してほしい。
- ・受講できなかつた方々のために、講義をDVDにしてウェブサイトに掲載するなど、公表する方法を検討してほしい。
- ・旅行会社が通訳案内士を手配する際の参考データとして、誰がどの研修を受講したのかといった情報を共有化してほしい。

③地方自治体等の行政関係者からの意見

ア) 現行の通訳案内士研修について

- ・通訳案内士団体が数多くの研修を実施していることを知り感銘を受けた。
- ・研修実施について、国がやること、旅行業界がやること、通訳案内士団体がやること等、関係者間の役割分担を検討すべきではないか。通訳案内士団体が主催することだけに頼っているだけでは厳しいのではないか。
- ・通訳案内士がスキルアップを行える場を増やすべきである。スキルアップのために、通訳案内士が善意通訳（ボランティアガイド）として活動している例も見られるが、せつかく通訳案内士の資格を持っているのにもったいない。
- ・どの通訳案内士がどの研修を受けたのかという情報が共有化できると、お客様や旅行会社も安心して通訳案内士に依頼することができると思う。
- ・通訳案内士団体等が実施している研修の受講料は、現在の通訳案内士の年収からすると負担が大きいと考える。必要に応じて国や自治体が支援をしていくべきではないか。

イ) 通訳案内士専門性研修について

- ・来年度も引き続き研修事業の予算化するためには、事業の目的を明確化し、事業（研修）効果を可視化する必要がある。
- ・受講したくても受講できなかつた方々のために、研修内容の開示は必要である。

以上